チームオレンジの仕組みと
ステップアップ講座の開催について

埼玉県 オレンジ・チューター　森本剛

チームオレンジの定義

- 認知症サポーターの量的な拡大を図ることに加え、今後は養成するだけでなく、できる範囲で手助けを行うという活動の任意性は維持しつつ、**ステップアップ講座**を受講した認知症サポーター等が支援チームを作り、認知症の人やその家族の支援ニーズに合った具体的な支援につなげる仕組み（「チームオレンジ」）を地域ごとに構築する。

「認知症施策推進大綱」 P23 （認知症施策推進関係閣僚会議, 令和元年6月18日）

チームオレンジ３つの基本

- ステップアップ講座修了者及び予定のサポーターでチームが組まれている。
- 認知症の人もチームの一員として参加している。（認知症の人の社会参加）
- 認知症の人と家族の困りごとを早期から継続して支援ができる。

「チームオレンジ運営の手引き」P6（全国キャラバン・メイト連絡協議会, 2020）

埼玉県が考えるチームオレンジ

① 認知症の人や家族の困りごと（ニーズ）を把握し、継続して支援ができる体制づくりが求められます。

② 認知症の人とその家族もチームの一員となることが望ましいと言えます。また認知症の人がチームに参加するにあたり「**本人が活躍できる、居心地が良い・安心できる場**」であることが必要とされます。

③ 認知症の人・その家族・支援者は、**常に対等な関係**になることが大切です。「支援する人、される人」の関係を超えて、チームオレンジによる**支え合いの地域共生社会**を目指していきましょう。

「認知症サポーター　ステップアップ講座　＜埼玉県版テキスト＞」P1（埼玉県, 2022）

本人・家族の早期からの支援

- いわゆる「**空白期間**」を埋めることで、認知症の進行を緩やかにする。
- 「認知症の診断＝介護の始まり」ではない。
- 今までの人間関係やコミュニティを途切れさせない。
- 新たに関わる人は時間をかけてじっくりと信頼関係を築く。（悩み事を話したり相談するにはそれなりの人間関係が必要）
- 家族も認知症に対する理解が必要であり、心の負担を軽くするための支援が必要。

チームオレンジとコーディネーター

「チームオレンジ運営の手引き」P8（全国キャラバン・メイト連絡協議会, 2020）より

コーディネーターとは

- チームオレンジの整備を推進していくための中核的な役割を担う。
- 市町村に１名以上配置する。
- 認知症地域支援推進員等が兼務・市町村担当課職員が兼務も可。

コーディネーターの役割

① チームオレンジの立ち上げ支援

- チームの編成支援
- 生活関連企業等とのつながりの強化
- 各専門機関との連携
- （個人情報保護法に即した）個人情報の適切な管理・助言

② ステップアップ講座の企画・開催

③ チーム運営に対する助言等

- 認知症の人の困りごと支援とサポーターのマッチング支援
- 定例会の開催や、運営に関する助言等

④ 自治体管内のチームオンジネットワークの構築

⑤ チームリーダー※（チームのキーマン）を兼ねる場合

- 認知症の人、家族の困りごと支援とサポーターのマッチング
- チームリーダーの役割全般

※（森本注）チームリーダーは必須ではありません

チームオレンジの類型

「チームオレンジ運営の手引き」P22-23（全国キャラバン・メイト連絡協議会, 2020）より

第１類型【共生志向の標準タイプ】

地域の交流拠点 (より所)を設置

- サポーター等の活動の拠点であると共に、認知症の人と家族などが、いつでも訪れたりできる普段からのより所とします。
- 認知症の人の社会参加へのハードルが低くなります。
- 共に集うことにより、サポーターと認知症の人との「顔見知り」「なじみの関係」が成り立ちやすく、認知症状の変化や、困りごと等のマッチングと支援の迅速な対応が可能です。

- 拠点は集まりやすい立地を選ぶことが重要です。
- コーディネーターは、チームオレンジ立ち上げ後は、チームのスーパーバイザー的役割での参加となります。
- サポーター以外（サポーター予備員）の多様な人々の参加を前提とする地域共生拠点への発展が望めます。

第２類型【既存拠点活用タイプ】

既にある拠点の活用

- 既に拠点がある「まちなかサロン」や「認知症カフェ」「介護予防教室」などをチームオレンジとして活用する方法です。
- 拠点の設置者や運営が介護事業者等の法人の場合は、住民サポーター主体の運営へシフトさせ、法人との協力関係の整理の必要があります。この場合、まず、チームオレンジの三つの基本の整備から始めます。介護事業従事者はつながりの職域サポーターとして、あるいは住民サポーター（ステップアップ講座修了）として、法人は連携する関連機関として活動をすることなどの整理が必要になります。

- 既にサポーター主体で運営されているサロン等に関しては、チームオレンジ○○サロンへ移行できます。この場合であっても、サポーターのステップアップ講座修了と三つの基本の整備は必要です。
- 既存の活動とチームオレンジの活動を並行して行う場合の整理として、既存の活動をチームオレンジのメニューとして存続させる方法があります。

第３類型
【拠点を設置しない個別支援型タイプ】

- 活動拠点が確保できない場合にも実施できる方法です。
- 既存のサロンや認知症カフェなどへチームメンバーが訪問し、活動支援することも考えられます。
- 集う拠点がないため、認知症の人の社会参加の機会が少なくなります。

- サポーターや認知症の人、家族等との交流の機会が少ないため、困りごと支援のマッチングのための情報収集と調整に時間と手間が生じる可能性があります。
- チームメンバー同士のコミュニケーションがとりづらいため、LINEやメール等を活用した運営が望まれます。
- かつての「やすらぎ支援員」制度に類似しています。
- チームリーダーの力量が求められ、チームオレンジ運営の難易度は高いと思われます。

ステップアップ講座実施について

「チームオレンジ運営の手引き」P26-28（全国キャラバン・メイト連絡協議会, 2020）より

チームメンバーの受講

- 認知症サポーターがチームオレンジのメンバーとなるには、ステップアップ講座の受講が必須の条件です。
- 認知症サポーター養成講座で学んだことを土台に、実践の場で必要となる認知症に関する知識、身近に交流し必要に応じて手助けするための対応スキル等を修得することを目指します。

① ステップアップ講座実施主体

- 市町村 (都道府県) 認知症サポーターキャラバン事務局です。
- 市町村（都道府県）キャラバン・メイト連絡協議会等への委託も可
- コーディネーターは市町村の認知症サポーターキャラバン事務局と緊密に連携をとりながら開催企画をする。

② ステップアップ講座の目的

- チームオレンジで近隣互助活動をする認知症サポーターには、チームオレンジの趣旨を理解し、近所づきあい、友人づきあいの延長線上で認知症の人への適切な接し方を心得ていることが不可欠です。
- これからチームオレンジで活動しようとする認知症サポーターがチームオレンジの目的意義を理解し、認知症の人を実際に支援するための知識・技能を必要に応じて身につけるために実施します。

③ ステップアップ講座講師

- キャラバン・メイト（キャラバン・メイト養成研修で認知症の基礎知識を担当した講師を含む）またはこれに準ずる者。
  - 認知症地域支援推進員
  - 保健師
  - チームリーダー
  - オレンジコーディネーター
  - オレンジチューター
  - 実施市町村が講師として認める者
  - ※ステップアップ講座のテーマに応じて適任者を選定します。

④ 受講対象者

- 認知症サポーター養成講座修了者 (チームオレンジメンバーまたはメンバー予定者)。
- 立ち上げ時には必ずメンバーを集めてステップアップ講座を開催する必要があります。
- すでにチームオレンジが立ち上げられている場合は、早急にステップアップ講座を開催します。
- （チームオレンジ立ち上げ以前にすでに認知症サポーターが地域での活動に必要な知識・技能を習得するための講座を修了している場合、ステップアップ講座を簡略化して差支えありません。ただし、その場合も「チームオレンジ」についてメンバーが理解するための講座または説明会を設けることは必要です)

- チームオレンジの活動に必要となる知識・技能の習得のためのステップアップ講座については、活動開始後も継続的に随時、開催することが望まれます。
- 市町村等がチームオレンジでの活動希望者を募ってステップアップ講座を開催し、修了者の中から活動意思のある者を中心にチームオレンジを立ち上げる方法もあります。
- チームオレンジに参加する意思のある者が認知症サポーターでない場合は、参加に先立ち、認知症サポーター養成講座を受講することが必須です。

⑤ チームオレンジのメンバーになる方法

1. ステップアップ講座を受講してからメンバーになる方法
2. メンバー登録後にステップアップ講座を受講する方法

が考えられます。

⑥ 講座内容・時間

～メンバーの経験、今後の活動目標等を考慮し柔軟に構成

- 具体的な研修内容及び時間は、受講対象者の実状、チームオレンジの活動内容等を考慮し設定します。
- チームオレンジの活動開始時にはチームメンバーが、チームオレンジを十分に理解していることが重要です。
- その上で認知症サポーターが地域で認知症の人、その家族の手助けや交流をするために身につけるべき認知症の症状の理解や対応法を習得できるようなステップアップ講座を実施します。

- チームオレンジの活動開始前に開催する場合、活動中のメンバーを対象に実施する場合、いずれも受講しやすいように研修内容を分割して順次行うなどして差し支えありません。
- メンバーの各種ボランティア活動や職務上の実績・経験等を踏まえて、柔軟に内容を構成します。

- チームメンバーの定例会（月１回程度）を活用して、継続的に実施する方法もあります。認知症の人とその家族については、必要に応じて適宜、参加してもらいましょう。
- コーディネーターはステップアップ講座実施主体である市町村キャラバン・メイト事務局と緊密に連携を図りながら、各地域のチームオレンジごとの標準カリキュラムを作成することも考えられます。

ステップアップ講座の組み立て例

- 受講者（チームオレンジメンバー）が「どのような活動をしていくのか」「どのような知識・技能を身につけたらよいか」「興味をもって学習し、活動意欲をもてるか」を念頭に、チームオレンジの活動に役立つ内容を盛り込み、カリキュラムを組みます。
- 所要時間、回数等については、内容や受講者の利便性などを考慮し自由に構成することが可能です。

- メンバーから学習したいテーマの希望、アイデアを出してもらうのもいいでしょう。
- 一方的な講義形式のほかに、グループワークや受講者が発表できる場を設けると、個々のメンバーの特性や地域の実情把握がしやすくなります。またメンバー同士親近感がわき、協力関係にもつながります。

グループワーク例

- 身近な社会資源を調べ、自分たちにできることを考える。
- 認知症の人の日常生活に役立つチームオレンジをつくっていくには、自分たちが暮らす地域の実情を把握し、活用できるサービスや社会資源を理解した上で、活動の方向性を考えられるとよいでしょう。

チームオレンジの構築

① 既存の団体・取り組みを整備

第２類型のイメージ

i. 認知症カフェ、サロン、当事者の会などをチームオレンジとして整備する。
ii. メンバーに対するステップアップ講座実施
（サポーター養成講座未受講の人がいる場合は養成講座から始める）
iii. チームとして認定

メリット

- 取り組みそのものがチームオレンジの活動と近い（３要件）ものであれば、すぐにでもチームオレンジとして整備できる。

課題

- メンバーにとって、自分たちがやってきたことが急に「枠組み」に入れられることに抵抗がある。
- 団体がチームオレンジとして整備されても、個々のメンバーがチーム員になることに抵抗がある。

② ゼロから構築Ａ

第３類型に近い

i. すでに認知症の人やその家族の具体的ニーズを把握していて、それに対応したチームを構築する。
ii. メンバーに対するステップアップ講座実施（サポーター養成講座未受講の人がいる場合は養成講座から始める）
iii. チームとして認定

メリット

- 認知症の人やその家族にとって、本当に必要な支援となる。

課題

- 活動の始まりが特定の対象者の場合、その人の離脱で活動がなくなってしまうおそれがある。

③ ゼロから構築Ｂ

第１類型・第３類型

i. チームづくりのために、広く募集してステップアップ講座を開催する。
ii. ステップアップ講座開催、チームオレンジの趣旨に賛同した方にメンバーになってもらう。
iii. 立ち上げ会議
iv. チームとして認定

メリット

- 拠点がある場合は活動の幅が広がりやすい（第１類型）。
- とりあえず、チームオレンジの設置はできる。

課題

- チームオレンジとしての活動をどう始めるか、何をしていくかを決めていくことが難しい。
- 拠点がない場合は、認知症の人やその家族との繋がりを持つことが難しい。

オーダーメイド型の支援

- 認知症の人のしたいこと、やりたいことは、人それぞれ。
- 支援の内容はその人・進行度合いによって異なる。
- 認知症の人や家族の話を聴いて、活動につなげることが重要。

なにをすればよいか・・・

- チームオレンジの種はいろいろなところにある。

- コーディネーターや行政担当者は、福祉分野だけではなく様々な分野の人達との繋がりの中からチームオレンジにつながるような取り組みを拾っていくことを考える。

さいごに

- 基本的にチームオレンジはボランティア。
- 認知症の人とその家族にとって居心地の良い場であると同時に、メンバーとってもそうであるべき。
- 目的はチームを作ることではなく、認知症の人やその家族を支援するということを忘れない。

チームオレンジ

認知症サポーターステップアップ講座

埼玉県版テキストを活用して

公益社団法人認知症の人と家族の会

埼玉県支部副代表・オレンジチューター　岩田知子

認知症ステップアップ講座実施について

❁埼玉県版テキストを使用するには・・・

これからステップアップ講座を開催するというところには、
埼玉県版テキストを活用してください。

・作成：埼玉県

・作成協力：ステップアップ講座標準テキスト作成会議委員
認知症の人と家族の会　埼玉県支部

2022年3月　※標準パワーポイントは無し

認知症サポーター

ステップアップ講座

＜埼玉県版テキスト＞

テキストに入る前に確認してほしいこと ➡ 別添参照

① まず！テキストを使用する認知症サポーターステップアップ講座：埼玉県版テキストを利用する方へのなかに書かれているチームオレンジになるために知っておくことを確認していく。

② 認知症サポーター養成講座の内容と基本変わらないが、埼玉県としてのチームオレンジのメンバーにお願いしたいことなど、内容は丁寧に仕上げてありますので、自分たちのチーム員の知識や状況に合わせて、必要なところを重点的に拾い出して、学びを深めていくことをお勧めします。

認知症サポーター
ステップアップ講座
＜埼玉県版テキスト＞確認事項について

- P2:チームオレンジのイメージ
- P3: Ⅰ **認知症について正しく理解しましょう**

  資料的に全国の統計（認知症）は出ているが、地域の情報として、自分の住んでいるところの高齢化率などを講座の中で伝えた方がより身近に感じられると思われます。
- P5～の認知症についての説明は、講座を担当する方の組み合わせの中で、当日の受講者の職種などをみながら、これだけは伝えたい！というところを組み立てておく。
- P15～６軽度認知障害（MCI）※認知症でない例を講師が経験上のことなどあれば・・
- P16～Ⅱ若年性認知症の理解と支援：チームオレンジの活動は、若年性認知症の当事者も一緒に活動することも多く機会があると思われます。そのためには、正しい理解と支援が求められます。

その他、P41～チームオレンジの事例を確認してください。

令和３年度深谷市
認知症サポーター・ステップアップ講座

令和３年　１１月　２２日（月）			
時間		目的及び内容	講師
13時00分～	10分	令和３年度認知症サポーター・ステップアップ講座・チームオレンジを目指して	深谷市長寿福祉課
13時10分～	80分	認知症サポーター・ステップアップ講座	オレンジチューター
	休憩(１０分間)		
14時40分～	90分	①DVD視聴（40分）越谷市・深谷市の活動報告 ②グループワーク（仮設題）「チームオレンジの立ち上げに向けて、地域の資源（インフォーマル）を確認しよう	オレンジチューター 認知症地域支援推進委員
16時10分	１日の振り返り（アンケート記入）		

最期に・・・
ＤＶＤの視聴していただきます。

「地域のボランティアと共に」

認知症supporter caravan